

6) 見真堂

御本尊：阿弥陀如来像

境内西側の極楽門の手前にある見真堂（けんしんどう）は、浄土真宗の祖・親鸞聖人（見真大師）の功績を称え、祀るために建立されたお堂です。

内部には、本尊・阿弥陀如来像の他、聖徳太子像が安置され、左には「六字名号（ろくじみょうごう・南無阿弥陀仏）」の掛け軸がかかっています。

お堂の名前にもなっている親鸞聖人とは言いますと、建物の横に像が建立されています。

四天王寺は和宗の寺院ですが、この見真堂には、多くの真言宗の信者・関係者が参拝に訪れます。

毎月 21 日と 22 日限定ですが、見真堂の堂内にてご回向が出来るようになりました。

見真堂には、納骨堂もあり合祀墓にお納骨される方のお骨を一時預かりされます。

7) 大師堂

大師堂は、大師は大師でも真言宗の開祖・弘法大師（空海）をお祀りするお堂です。

弘法大師は、若いころに、四天王寺の西大門（極楽門）で日想観（じっそうかん・にっそうかん）の修行をしたと伝えられ、大師堂の北側には、「弘法大師修業像」が祀られています。

この像の周りの砂は、四国八十八ヶ所霊場の砂を集めたもので、「お砂踏み場」となっており、大師堂で申し込めば 1 回 300 円で「お砂踏み」を体験できます。

お砂踏みをすると、四国八十八ヶ所を巡礼したのと同じご利益があるとされ、1 時間ほどかけて踏んでいく人が多いということです。

